

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年 12 月 26 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム まりホーム熊野 ----- 広島県
評価調査員の氏名	氏名 延平 和子 -----
	氏名 寺岡 信香 -----
事業所側対応者	職名 ホーム長 ホーム長 -----
	氏名 三谷 光蔵 岸田 浩子 -----
	ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3491500231
法人名	社会福祉法人 まり福祉会
事業所名	まりホーム熊野
所在地	広島県福山市熊野町乙443番地の1 (電話) 084 - 959 - 1166
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11 - 31 - 201
訪問調査日	平成 20 年 12 月 26 日

【情報提供票より】(20 年 11 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 1 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15 人 非常勤 1 人 常勤換算 15.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (八百円以上か)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

(4) 利用者の概要 (11 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼隈病院 常石医院 黒瀬デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成21年1月27日

長閑な田園地帯の中にあり、季節の移ろいを肌で感じる事ができるという、恵まれた環境でゆったりと過ごされている。利用者と家族との繋がりを大切にされているので、意見や要望が出易い関係が築かれている。又、地域行事や公民館活動などへ利用者と共に参加し、交流を深めながらその地域の中で自分らしく穏やかに暮らせるよう支援している。利用者一人ひとりの生活歴を活かした役割や趣味等ができる場面づくりをし、管理者や職員は生きがいを持って楽しく生活してもらいたいという思いを共有し、日々取り組まれている。地域福祉の向上に貢献するという理念の基、地域に根ざした事業所となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題である、災害対策については、地域に融合しながら積極的に取り組まれ改善されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 項目ごとに全職員で意見を出し合い、取り組まれた事により、問題点に気づく事ができ、今後のケアに反映させる様取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議を定期的開催し、家族代表、町内会から数名、民生委員、地域包括支援センター等の参加メンバーにより、事業所の取り組み状況や評価について意見交換を行い、そこでの意見を全職員が共有しサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会や運営推進会議の意見交換の場で気軽に意見や要望、苦情が出やすい雰囲気作りに努め、出された意見や要望については真摯に受け止め、職員間で共有し、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、回覧板の受け渡しなどにより親しい関係を築く事ができ、野菜を貰ったり気軽に行き来ができています。また、事業所の避難訓練などにも参加してもらったり、保育所との定期的な交流や地域行事、公民館活動にも参加し交流を深めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らしが出来るように支援すると共に、地域福祉の向上に貢献していくという、法人独自の理念が作成されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念の意義を理解し、各自の目標の中にも取り入れ日々のケアのなかで実践するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所との定期的な交流をされ、地域の行事にも参加している。町内会にも加入し回覧板の受け渡しなどにより、親しい関係を築く機会となり、今ではご近所の方々にも運営推進会議へ参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を全職員が理解され、全項目について意見を出し合い取組まれた事により問題点に気づく事が出来、今後のケアに反映させるよう努めている。又外部評価の改善点については真摯に受け止め出来るところから改善された。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、町内会の方々、民生委員、地域包括支援センター等のメンバーにより、事業所の取組状況や評価について意見交換を行い、そこで頂いた沢山の意見をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の福祉担当者とは定期的に連絡を取り合い、情報交換を行っている。又、問題点についてはアドバイスをして貰いサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭報告や日々の暮らしぶり、健康状態については、家族の訪問時や電話、便りなどで定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の中で意見、要望などが出易い雰囲気づくりに努めると共に意見箱も設置している。出されて意見や要望については職員間で共有し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限に抑えているが、代わる場合は家族会で報告をすると共に利用者へのダメージを防ぐよう家族の協力を得ながら取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望により参加しているが、なるべく順番に全員が参加できるような体制となっている。内容については資料を基に内部研修の中で周知している。またそれぞれのレベルに合わせた勉強会も定期的に行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と定期的に利用者と共に相互訪問し交流をしている。管理者同士もお互いの問題点について意見交換をし、アドバイスを貰ったりしながらお互いに、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者、家族から身体状況や希望、要望を聴取し、見学や何日か利用して貰いながら徐々に馴染んでもらった上で利用してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	昔話や一人ひとりの得意とするものから学ぶ事が多い。野菜作りなど教えてもらい場面もあり、お互いに支え合いながら過ごしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	その人らしい暮らしが出来るよう本人や家族から希望、要望を聞き添うよう努めている。また意思疎通が困難な場合は表情や家族からの情報をもとに、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人や家族の希望、要望を聞き、カンファレンスを行い職員の意見などを反映した介護計画を作成している。家族の承諾も得ている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	一ヶ月に1回評価を行い、3ヶ月ごとの見直しをしている。状態変化が生じた場合は、本人、家族、職員と共に話し合い、医師の指示を得ながら、状態に即した見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望により、地域の公民館活動への参加や馴染みの美容院への送迎など、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望でかかりつけ医による往診や歯科医の訪問診療が受けられるよう支援している。又夜間対応や緊急時についても関係医療機関と連携を取り24時間体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成し、利用契約時、家族や本人の希望を聞き承諾を得ている。又職員ともミーティングの中で話し合っている。		終末期のあり方について、家族、医療関係者、職員等で話し合いを定期的に行い、連携を取りながらターミナルケアに向けた方針を共有される取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や権利を守るよう、言葉かけには注意をしている。記録等の個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や外出等、利用者の希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食を促す言葉かけや会話をしながら楽しくされている。後片付けなども力量に応じ職員が声かけをし協働した楽しい時間となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って楽しく入浴してもらうよう支援している。拒否の方には、無理強いせず、清拭や手足浴などで対応し清潔保持に気をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした趣味、パッチワーク、ちぎり絵など、又料理の得意な方にはしたごしらえ、お花の好きな方には花の手入れなど一人ひとりが出来る事をしてもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、外食など、希望により出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	気軽に訪問してもらえるよう玄関は施錠せず、見守りで対応している。居室にも鍵はなく穏やかに生活してもらえるよう取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内での火災訓練に利用者と一緒に参加している。事業所の避難訓練も定期的なされ、家族の方や地域の方に参加してもらい、協力が得られよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立となっているため栄養バランスには配慮されている。水分摂取量については800CC～1000CCを目安に一人ひとりの量を把握し、不足した方には色々と工夫し、なるべく不足しないよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々とした共有の場所は、見守りがしやすいように工夫されていて、畳スペースにはコタツがあり、フロアには季節感溢れる装飾品が掛けられている。不快な臭いもなく穏やかに過ごせる空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具が置かれ、思い出の写真、趣味の物などが飾られていて、自分の場所といった雰囲気が感じられるような居室となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム熊野 (ユニットA)

評価年月日 2008年12月26日

記入年月日 2008年11月30日

記入者 管理者 氏名 中崎悦嗣

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らせる支援をするようホーム独自の理念をつくりあげている		
	理念の共有と日々の取り組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を管理者、職員が意識をもって日々の業務の実践の中で取り組んでいる		
	家族や地域への理念の浸透			
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの理念を玄関、ホール内に掲示し家族の方に理解していただける様取り組んでいる 運営推進会議などでも話題にして理解して頂いている		
	2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣で挨拶したり声を掛け合ったり、回覧板を持って行ったり、来られたり日常的に付き合いが出来るよう努めている		
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内運動会、敬老会、資源回収など地域活動に参加し、地元の方々と交流している またホームの消防訓練や茶話会、夏祭りなどにも来て頂いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者又高齢者介護相談にのったり、困っていることがあればいつでも相談を受けられる様話し合い、地域の方にアピールしている		
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は自己評価又外部評価を実施する意義について勉強会を設け運営者と相談の上サービスの質の向上に向け取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、利用者の状況、グループホームの理念に向けて取り組み、また自己、外部評価への取り組み状況も報告し、そこでの意見交換をサービス向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉担当者と定期的に連絡を取り合ったり、また市町村事業の行事に毎月1回入居者と共に参加しサービス向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や青年後見制度の資料で活用し、ホームにて勉強会を設け制度の内容など勉強している また、実際にはかけし制度を利用し、社協の担当者が行き来し、状況報告など話し合っている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内やホームでの勉強会のテーマとして取り上げ、具体的な虐待の内容を把握し事業所内で防止するよう努めている また、日々の支援の中で個々に注意し、互いに虐待につながる行動を見つけ出し防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は家族に充分時間をかけて資料に基づいて説明を行い、理解をして頂いている わからない所はいつでも尋ねて頂く様話をしている 解約時も充分話し合い納得して頂いている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書にも記載し、契約時にも口頭で説明し、又第三者機関の説明もする 又ホーム内意見箱も設置している 意見があった時には全職員で話し合いをし、対策を検討している</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金については、定期的に明細を送付している また健康状態、日常の生活は、面会時に報告又は変化のあった時は電話でも報告している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議、家族会などで意見交換の場を設けており、管理者、職員にも相談頂き、その意見を全職員共有、反映するよう努めている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に会議、勉強会などにおいて意見、提案を取り上げ、運営の向上に向けて反映している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じて、ユニット内、又は隣のユニットから応援あったり、ホーム長が現場で対応したり、状況に応じて、職員配置をしている 人手の要する行事などでボランティアの応援してもらっている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの職員による支援を受けられる様、異動、離職を必要最小限に抑えるよう話をしたり、ダメージを防ぐよう配慮している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	職員のレベルに応じて、OJTや社外研修などで育成をはかる あわせて目標管理による自己啓発の促進を行なっている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に利用者、職員も交流している 管理者は互いに運営について相談しアドバイスを受けたり共有している 互いに意見交換を通してサービスの質の向上に努めている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的なグループミーティングや個人との話し合いの実施など話しやすい環境づくりに取り組み、職員の懇親会を行なっている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年度初めに各自、自己目標を立て、目標に向けて各自で、能力の向上に取り組み、運営者は目標管理を行なって各自を把握し、努力や実績の評価を行っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と一緒に日常生活の支援を行い、関わりをもつことで職員に話しやすく又、職員も言葉、様子に耳を傾けられる状態を意識し、話すことが困難な方は生活の中で見つけ出したり複数の選択肢を提示し、本人の答えやすいように選んでもらうようつとめている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望を聴き、話をさせて頂いている 遠方の方には、手紙、電話などで伝え、来訪された時にくわしく話をするようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞いて、グループホームで出来る事と出来ない事を説明し、出来ない事に関しては専門機関(散発、歯医者、訪問診療)が出来るようサポートしている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に食事をしたり夏祭り地域の方々と馴染んでおられる 又公民館の行事なども本人希望で参加され、職員と一緒に参加し、地域の方々と顔なじみになり、声をかけて頂いたりしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来ることを本人と一緒に考え本人が納得したうえで野菜の皮むきなどして頂いている 本人にあった日常生活ができる様、本人の状態を見ながら支えあう関係を築いている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望で病院のリハビリに週2回行ったり、また、家族同行で職員と受診に行ったり、いっしょに食事したり、共にケアプランの話し合いをしたりなど一緒に支えていく関係を築いている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方の家族に対して電話で話をしたり、手紙を書いたりされている 又日常生活や行事の写真見て頂いたり、外泊、外出、受診同行にも家族の協力をしてもらっている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の情報をもとに大切にされてきた人や、場所との関係が途切れないよう家族、知人からの訪問を積極的に受け入れ関係が維持できるよう又、ゆったり話が出来るよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、時にはホールテーブルの席替えをしたり、朝の体操や洗濯物をたたんでもらうなど、出来ることから皆で助け合いながら、声を掛け合いながら支えあうように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、関連事業所の入院や在宅サービスに切り替えることで連携を取っている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は本人、家族に希望を聞きながら、相談しながら、検討している。また、困難な場合はその人らしい生活を送られるように検討している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接行い、書類にて詳しく記入し、又日々のコミュニケーションの中でわかったことは記録している。全職員が把握し、共有出来るように個々のファイルにて保管している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の様子を経過記録に詳しく記入している、日々の様子、状態変化も早期発見し、全職員で把握、共有している		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成する時には家族、本人の希望も聞き、カンファレンスも行ったうえで他の職員の意見、アイデアを反映した介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回はケアプランの評価を行っている。随時本人の状態変化生じた場合は、本人、家族の思いを重視し、医師の指示も参考にし、カンファレンスを行い、介護計画の見直し作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子を経過記録、レクリエーション用紙に記入し、情報を共有して状態変化に対しては早めの対応を行い、申し送りノートの活用や、ミーティングにて全職員がケア統一するよう努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしては希望のある人は地域の散髪、公民館活動、病院受診、外出支援などのサービスを利用している 又、状況に応じて専門医希望があれば支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に民生委員の訪問されたり、地域のちぎり絵、美容、踊り、ボランティアの会の人々など、地域の保育所とも交流し、消防訓練時には消防署員も連携を取っている また、地域の公民館、コミュニティーセンターとも行き来している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月、市町村事業の転倒予防教室に地域の一般の方と一緒に入居者が参加できる様よう支援している 美術館、公民館、地域の保育所、小学校など行ける所に希望あれば支援している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に訪問して頂き、相談したり、アドバイスしてもらったりしている 要支援2の方は現在おられないので、入居あれば、ケアマネジメントなどの協力していただけるように話をしている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、関連医療機関と連携とり、本人の負担かからないよう、訪問診療や往診して頂いたり、状態変化があれば、連絡取りながら、適切な対応をして頂く様、支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の変化に伴い、状況に応じて担当医と連携をとりながら職員、家族がが相談に行ったり、必要に応じて診察、治療受けられる様支援している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る訪問看護ステーションと契約を交わし、24時間サポート体制で必要に応じて報告、相談しながら、健康管理や医療活用の支援している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の様子または早期退院に向けて地域連携室と連絡取り合い、また主治医、看護師長などと相談しながら連携とっている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について入居時に話し合い方針を共有している また、必要性がでてきた場合は随時本人、家族、主治医を交えて確認している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者が本人、家族の希望を組み入れ、ホームでは穏やかに過ごせるよう医師、看護師とも連携を取っている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームより別の居所に移り住む際は、本人に関わるスタッフ間で充分話し合い、情報交換を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重した言葉かけにお互いに注意し合っている 記録など個人情報には充分配慮し、機密の保てる場所を決めて保管している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人と話し合い、納得したうえで手芸、貼り絵、塗り絵など体操、写経もされる方など出来ることに支援をしている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に朝ゆっくり寝たい人もあり、自分の部屋で好きな番組を見たり、希望によって支援している</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月化粧のボランティアに来てもらっていて、お顔のマッサージなど、又希望あればお染め、着付けなどおしゃれしたり、理容院は希望あれば、地域の理容院にも来て頂いている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の能力に応じて食事の準備など手伝って頂いている又食事後の下膳、テーブル拭きなど入居者の希望を取り入れている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>時々メニューを変えて本人の食べやすい形態にしている また、家族に協力してもらい、本人の好きな飲み物を持ってきていただける</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、習慣も生かし、本人が気持ちよく排泄ができる様よう支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声かけにて希望を聞いて入浴も楽しまれて頂いている 又清潔保持に気をつけ、必要に応じ、清拭、手足浴など清潔、快適に楽しめるように支援している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状況に応じて居室で休んだり、ホール内のソファや、畳の間でくつろいだり、休息したり、安心できるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る方は自分の居室を掃除したり、布団を片付けていただいたり、その方の能力に応じて引き出すよう支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて財布を持って自分で買い物ができるよう支援している 金銭管理可能の方は、自分で管理されている人や預かり金で管理している人もおられる 個別に買い物に行くように体制を考慮しながら行い、支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望があれば職員と一緒にいる(散歩、買い物)また、季節を感じてもらおうようドライブも支援している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力のもとで職員同行でドライブ、食事したり支援している(買い物、散歩)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に手紙を送ってきたり、電話で話しをしたり、また手紙の返事のアドバイスをしたりと支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気持ちよく訪問頂けるように元気に挨拶し、居室内の気温調節や湯茶などもてなし、居心地よく過ごせるよう工夫している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引きを皆に渡し、勉強会で熟知している やむを得ず、身体拘束を必要とされる時には家族の了解を得て、同意書を作成し、ケアプランと同様に定期的に解除できるかどうか検討している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の個室には鍵は設置していない、また、玄関には日中誰でも来て頂ける様に開放している なるべく日中は開放して穏やかな生活ができるように取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はプライバシーに配慮しながら所在を確認している 夜間は1時間ごとに巡回をして所在確認、安全確認に努めている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は職員が決まった場所に保管している その他の危険物についても職員で保管している 本人が危険で管理出来ないものは預かり、必要な時には見守るよう支援する		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止委員会、リスクマネジメント委員があり、予防に努め、勉強会で防止策を学んで防止に努めている 火災については年2回消防訓練をおこなっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアル、ACLS講習など定期的に行い、沼隈病院との連携を取っている またAEDの使用方法なども定期的を開催している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で非難、防火訓練を定期的に行い、地域の方も参加して頂き、協力頂ける様に働きかける 災害時の非難訓練も町内で行われ、入居者と一緒に参加しグループホームへの理解を得られるように働きかけた		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者が思い通りに生活していくうえで、危険なことは避けられない常にリスクがあることを家族に常日頃から説明し、話し合い、了解して頂いて記録に記入している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックを行い、様子が違う時はホーム長に報告を行っている 必要であれば訪問看護、主治医にも相談している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬の処方箋をファイルしており、効能、副作用について確認、理解し、必ず手渡し、服用確認し、磁力で出来ない方は介助している全員の薬を管理している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防のために体を動かすように声かけし、排便状態を把握し、水分補給、状況によっては便秘薬で対応している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々にうがい、歯磨きの声かけ、介助確認し、毎晩義歯洗浄剤にて消毒管理している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作った献立表で、栄養バランスを摂っている時には同じ食材で別メニューを作ったりすることもある 水分補給はいつでも対応、夜間ボトルに詰め対応し、病状に応じて食事量、水分のIN,OUTなど確認している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては年1回家族同意のもと、予防接種している 外出後は必ずうがい、手洗いを入居者、職員徹底している 消毒も毎日、随時行う 又、感染予防講習も毎年参加している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	漂白剤にて除菌、消毒、乾燥が出来るものは実行し、調理用具も衛生管理し、生物は加熱、生野菜は十分な流水で水洗いで新鮮、安全を心がけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は自動ドアでオープンにしており、建物周囲はフェンスで安全確認、花、庭木もあり、親しみやすく、近隣の方により、季節の花を飾っていただくこともある		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには畳や、入居者の手づくりの作品、大きな窓口から自然が見られ、季節を感じる事が出来る キッチンからの音、匂いで生活を楽しめる空間作りを心がけている冬は畳の間にこたつも置いてある		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間があり、TVもおいてあり、冬には、ホットカーペットを敷いて日中、くつろいでいる ホールには、ソファがあり、仲の良い方々と思い思いに話をしたり、昼寝したりと穏やかに過ごされている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真、使い慣れている椅子、入居者が作った作品などを飾って安心して過ごされるよう工夫している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にて24時間の換気が行われ、掃除後には必ず換気を行っている 各居室の温度調節は職員が随時行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてがバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室などいたる所に手すりがあり、入居者の能力に合わせ安全かつ自立した生活が送れるように工夫されている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室入り口には表札、トイレには入居者がわかるように字の大きさ、色、の表示も行っている また、居室のドアに混乱を防ぐため名前を書いてわかりやすくしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候の良い日にはホーム外周を散歩したり、テラスにはデッキチェアがあり、日光浴またはおやつを持って出て会食したり楽しく過ごされている 周りにはプランターに季節の花を植えている		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

Aユニット独自に特に力を入れている点は、入居者個々のレベルに合わせた生活の支援をしていることです。自分の居室の掃除、布団の整頓、食事の準備など、また、自分の洗濯物があれば、たたんで頂いたり入居者の出来ることを引き出して自分の役割を生きがいとして思い、また、入居者と職員同士が家族のような関係で、入居者の訴えがあれば真剣に聴き、少しでも不安を解消し、解決できるよう支援し、皆様明るく、楽しい生活を穏やかに過ごしてもらうことです。また、事業所全体としては、山や、川、田んぼなど周りが自然に囲まれた穏やかな環境を活かし、地域の保育所、公民館、コミュニティセンターなどと活発に交流し地域に根ざし、四季折々の生活を楽しんでいることです。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム熊野 (ユニットB)

評価年月日 2008年12月26日

記入年月日 2008年11月30日

記入者 管理者 氏名 岸田 浩子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をつくりあげており、地域の中でその人らしい生活が出来るよう支援している		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、ホームの理念を管理者、職員が意識を持って、各自業務の実践の中で取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関、スタッフルーム、ホール内にホームの理念を掲示しており、家族、地域の方又運営推進委員会でも理解していただけるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶したり声をかけ合ったり季節の花、野菜を頂いたり又、回覧板の受け渡しなどの日常的なつきあいが出来るようにしている		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としてホーム行事や消防訓練などホームに来ていただいたり、地域行事に参加し交流できるよう努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いつでも相談が受けられる窓口となるよう地域の高齢者介護相談にのったり、茶話会にて栄養指導などもアピールしている		
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価、外部評価を実施する意義について勉強会を開催し、運営者との相談を行い、サービスの質の向上に向けて全職員が問題点の改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、グループホームの取り組み、利用者の状況、評価の取り組み状況を意見交換し、そこでの意見をサービス向上のために活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市の福祉担当職員と定期的に情報交換のための連絡取り合ったり、相談したりし、サービスの向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内においてかけはし・成年後見制度資料を活用し、勉強会、話し合いを行い、ホームで必要な方には活用しており、内容を理解している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての資料をもとに勉強会を持ち、職員一人ひとりが注意し、お互いに虐待につながる行動を見つけ出し、防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には理解いただけるよう資料に基づいて説明をしわからないときはいつでも尋ねて頂くように話しをし、解約時も話し合いをし、納得頂いている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱を設け、意見があった時には全職員で話し合いをして対策を検討している</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金については定期的に明細を送付、ホームでの生活、健康状態は面会時に報告又は変化のあった時は電話でも報告している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議、家族会などで意見交換の場を設けており、管理者、職員にも相談頂き、その意見を全職員が共有、反映するよう努めている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議、勉強会を定期的に行い、意見、提案を取り上げ、サービスの質の向上に向けて反映している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じてユニット内又は隣のユニットから応援あったりホーム長が現場で対応したり、状況に応じて職員配置をしている 人手の要する行事などボランティアの応援してもらっている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の不安、レベル低下にならないように注意し、異動、離職を最低限にし配慮している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じて、OJTや社外研修などで育成を図るあわせて目標管理による自己啓発の促進を行っている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に交流をしている 管理者は運営について相談など共有し、互いに刺激し合いながらサービスの質の向上に努めている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的なグループミーティングや、個々に相談にのったり個人との話し合いの実施など話しやすい環境作りに取り組んだり、また職員の懇親会をも行ったりしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに自己目標を立て、それに向けて取り組み、管理者はそれを把握し、努力や実績の評価をして向上心を持てるように努めている		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何を求めているのかを聴く時間をつくるようにしており話すことが難しい方には生活の中で見つけだしたり複数の選択肢を掲示し本人の答えやすいように選んでもらうよう求めているものを見つけれられるよう努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望を聞き話をさせて頂いている、遠方の方には手紙電話などで伝え、来訪された時に詳しく話しをするように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聴いて、グループホームで出来ることと出来ないことを説明し、出来ないことに関しては専門機関(散発、歯医者、訪問診療など)が出来るようサポートしている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域の行事に参加したり公民館に出向いたりし、関係を築き馴染めるよう工夫したり、家族とも花見、紅葉狩り、食事会、地域、家族参加の夏祭りなどしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体とし、花壇づくりの耕し方など利用者とし合いながら、全員参加の運営を行っている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時などで思いを話し合ったり又利用者にとってどのようにすれば一番良いのか共に考え、ケアプラン作成など協力できるようにし外出なども協力して頂いている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られた時には近況報告、本人の気持ちを理解していただけるよう又良い関係が続けられるよう努めている、外泊、外出、受診同行にも家族の協力をしてもらっている 家族から電話、手紙、写真など送ったり、送られたりもされている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所、友人などの面会を積極的に受け入れ、関係が継続出来るようゆったりと話ができるよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	花(アレンジフラワー)、レクリエーション、貼り絵、掃除など互いに気遣い声を掛け合いながら支えあっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居の場合、入院や在宅サービスに切り替えることで協力機関と連携を取っている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活のなかで利用者の希望、意向を第一とし、支援を必要とするときはその都度対応している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴、環境など聞き取り施設利用されていた方は情報収集を行い、又は日々の生活の中からも発見するよう努めている 面会時には家族より新たな情報を得ることもある		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人が何をしたいのかを理解し、その人が出来る範囲で出来るよう支援している		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望、意見を重視し聴き取りを充分行い、カンファレンスを行い介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、また変化のある時は、本人、家族の思いを重視し、医師の指示も参考にカンファレンスを行い、見直しをし介護計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、フローシート、相談記録の活用、見直しをしたりカンファレンスなどに生かし、申し送りノートも活用し情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域、散発、公民館活動、病院受診、外出支援などをグループホームとして支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的なボランティア(美容、ちぎり絵)や公民館の教室への参加、民生委員の方の訪問 保育所、小学校が近いため連絡をしたり文化祭への出品、消防訓練など実施している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な場合はより居宅介護支援事業所との連携を取っている 又、毎月一度転倒予防教室において一般の方と共に参加し、交流出来るように支援している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂いている 要支援2の方はいないが情報交換を行い今後必要ある時は協力して頂けるよう話をしている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望、意見を重視し聴き取りを充分行い、カンファレンスを行い作成している希望を重視し、かかりつけ医やグループ内の沼隈病院医師の指示のもと適切な医療を受けられるよう支援し、又、本人負担にならないように訪問診療にて対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	担当医と連携をとりながら本人と共に家族、職員が相談に行き支援、又、変化にともなった診断、治療を受け、状態変化を報告をしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者を理解している訪問看護ステーションとの契約で24時間サポート体制をとっており、必要であれば報告、相談、健康管理や医療機関との活用、支援している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	関連医療機関との連携で入院中の様子や早期退院に向けて医師、看護師長、相談員と連絡を取り合い相談している		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方について入居時に話し合い、必要性の出たときは、その時に医師、家族と確認し職員と情報を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の希望を組み入れホームにて穏やかに過ごすことが出来法人グループの中で穏やかに終末期を過ごすことが出来るよう医師、訪問看護との連携をとりながら行っている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の希望があれば、べつの居所へ移られる際は本人にかかわるスタッフ同士で話し合い情報交換を行いダメージを防ぐように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の人格を尊重、声かけに注意をしあい、プライバシーに配慮するよう心がけ対応している 個人記録は機密の保てる場所に保管している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望されるちぎり絵、塗り絵、パッチワークが出来るよう支援している 外出の時も確認し納得を得て外出している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝ゆっくりと寝ていたい人など個々のペースで生活出来るよう努めている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人いきつけの美容院、希望あればヘアカラーもする 地域の理容院によりカットをしたり又、地域ボランティアによる化粧、着付けなどで喜んで頂いている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々に食事の準備をしたり、皆でホールにて食事をし会話を楽しみながら過ごして頂いたり又、下膳できる方はして、又別メニュー（お好み焼き、たこ焼き）など利用者を楽しみながら作ってもらっている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お好み焼き、たこ焼きなどのおやつ作りをしたり、好きな飲み物、時には喫茶店のようにしてみたりする 家族が好みのものを持ってこられたりし楽しまれている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立に向けた排泄パターンをつかみ、声かけ、誘導など個々に合わせた支援と便秘の方は下剤などで排便を促すようにしている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望、状態に合わせて入浴して頂いている 又汗をかいた時なども対応し、清潔に努めている 入浴中はリラックスして歌を歌ったり、昔話など引き出している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中運動、レクリエーションなどで安眠出来るよう配慮し、昼寝も個々にされている 休む前に温かい飲み物を飲んでもらうなどしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花作り、畑仕事、台所仕事など分担し、買い物、外出、展覧会など本人の希望に沿って行っている 自室の掃除なども希望によりしてもらっている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理できる方は所持している方もおられ、預かり金で管理している方もおられ、それぞれ希望にあわせて買い物ができるように支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望ある時は支援を行い、季節ごとの行事に参加いただいている(花見、紅葉狩りなど)又ドライブ、食事など楽しんで頂いている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に花見、紅葉狩り、ホテルでの食事、美術館などへ出かけられるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話したり、返事を書いたり自ら手紙や写真、プレゼントを贈ったりされている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室内を快適に整え、居室にてお茶を飲み、過ごして頂いたり、時にはホールにておやつを共にして頂いたり、訪問の際は楽しく過ごして頂ける様にしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の手引きを勉強会で理解し取り組んでいる 身体拘束を必要とされる時には家族の了解を得て同意書を作成しケアプランと共に見直しをしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、玄関は誰でも来て頂ける様に日中は鍵をかけずに開放している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の動き、所在確認、様子が把握できるように配慮し夜間は1時間ごとの巡回を実施している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁については手の届かない所に保管し、その他のものについても、職員だけが決まった場所に保管して共有している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止、リスクマネジメント委員会など沼南会グループの勉強会で防止策を学んで事故のない安全な生活ができる様防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアル、ACLS講習など定期的に行い、沼隈病院との連携をとっている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で非難、防火訓練を定期的に行い、地域の方も参加され、協力いただけるように働きかけている。また、町内の行事であった災害訓練にも入居者と共に参加している		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクのある利用者は家族と相談、説明をして了解いただいている。入居者本位でのなかで起こりえるリスクについて説明と記録で了解頂き、出来るかぎりの対応策を話し合うようにしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックを行い、様子が違う時にはホーム長に報告を行っている。必要あれば訪問看護、ドクターに相談している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬の処方箋をファイルしており、効能、副作用について確認、理解し、必ず手渡し服用確認し、自力で出来ない方は介助している全員の薬を管理している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防のため体を動かすように声かけし、排便状態を把握し、水分補給や状況によっては便秘薬で対応している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後個々にうがい、歯磨きの声かけ、介助、確認し毎晩、義歯洗浄剤にて消毒管理している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のつくった献立表で栄養バランスをとっている 又、水分補給はいつでも対応、夜間ボトルに詰め、対応し、病状に応じて食事量、水分のイン、アウトなど確認している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては年1回家族の同意のもと予防接種している 外出時の後で必ず手洗い、うがいを入居者、職員施行している消毒も随時行っている、毎年、感染予防講習にも参加している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	漂白剤にて除菌、消毒、乾燥が出来るものについては実行し、調理用具も衛生管理し、生物は加熱、生野菜は消毒を十分な流水で新鮮、安全を心がけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は自動ドアでオープンにしており、建物周囲はフェンスで安全確認、花、庭木もあり、親しみやすく近隣の方により季節の花を飾って頂く事もある		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには畳や入居者の手作りの作品、大きな窓から自然が見られ季節を感じる事が出来る キッチンからも音、匂いで生活を楽しめる空間作りを心がけている冬にはコタツも出している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った物同士でソファ、畳などで日中過ごしたり、居室で静かに過ごしたりしている居室内でTV好きな番組を見られている方もおられる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた棚、椅子があったり、家族の写真をおいたり、思い思いに自分の過ごしやすい空間をつくり、過ごされている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間の換気、室温計を置き必要な時にはエアコンにて温度調節設定し、外気との差がないように調節している 朝の掃除の時には窓を開け、換気に心がけている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーになっており、床はクッションフロア、ホール、トイレ、浴室は手すりを設け、歩行を安全に出来るようにしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホワイトボードへ日付の記入、個々に日記をつける方もおられる 混乱の見られる時は不安を取り除くよう話を十分聴くよう心がけている相談にのることもある		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスにはデッキチェアがあり、天気の良いときは、散歩、日光浴、おやつ、おしゃべりを楽しまれている プランターで花を植えたりしている		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

Bユニットとして特に力を入れている点としては入居者のレベルに合わせたレクリエーションを考え、一人ひとり何が出来るのかを考え、フラワーアレンジメント、鉢植え、塗り絵、おやつ作り、又外出なども皆で考え、ドライブ、外食など楽しんで頂けるよう、積極的に取り組み、それを入居者はもちろん、職員も楽しんでいる。事業所全体としては、自然に囲まれた、穏やかな環境を活かし、地域の保育所や公民館などと活発に交流し、地域に根ざし、四季折々の生活を楽しんでいることです。